

# 障害者作業所 相次ぎオープン



## フレンズ 重度児が花を栽培 ほっとハウス 手作りケーキ喫茶

徳島市内で一日、二カ所の地域共同作業所が新たにオープンする。県内でも初めて

重度障害児を対象にした工房と、メンバー手作りのケーキや軽食などでもてなす喫茶店で、いずれも保護者が中心になって実現させた。開設を目前に控え、関係者は大詰め

の作業に大忙し。

地域での重度障害児の拠点 担当している。

を目指す「フレンズ小規模通 作業所の母体となった重度

所作業所」(鈴江正博代表、 障害児とボランティアのサー

川内町米津)の仕事は、花の クル「フレンズ」(同)と交流

栽培やマスコットづくり、名 を続けてきた小松島中学校も

刺やオーダーメイドの障害者 苗の育成などで支援する。

用品の製作など多彩。七人の 施設長の山本利香さん(三〇

メンバーが花の水やりなどを 〓南矢三町二〓らは「重度の

障害があっても、できる」と

は探せばいくらでもある。県

内初の作業所を必ず成功させ

る」と抱負を語る。

喫茶店を開くのは、知的障

害者の小規模作業所「ほっと

ハウス」(松本千鶴代表、名

一代表、七人)として再出発

## 地域との交流目指す

【上】作業実習をする県内初の重度障害児の作業所「フレンズ」のメンバー徳島市川内町米津【下】喫茶店オープンに向け準備を急ぐ「ほっとハウス」のメンバー徳島市名東町。

から定食、たこ焼きまで、安価で豊富なメニューがセールのポイントで、開店に備え料理教室で腕を磨いた六人の女性メンバーが手作りする。

松本代表は「やればできる、やらないと何も変わらない」との思いでメンバー、保護者、ボランティアが一丸になって頑張ってきた。地域に溶け込む作業所になりたい」と話す。

営業時間は午前十時～午後五時。原則的に日、水曜、祝日は定休。開所式のある二日には軽食や工芸品販売、リサイクルバザーなどの「ほっとハウス市」を開く。

二作業所の新設で、同市内の心身障害者作業所は八カ所(総定員約百人)になった。このほか国府町で菌床シイタケを栽培していたグループも一日、同町早瀬に新たなハウスを確保し、地域共同作業

所「きこのハウス」(横田弘一代表、七人)として再出発